琉球大学学術リポジトリ

今年こそは家計の立直しを　（その１）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新垣, 都代子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20214

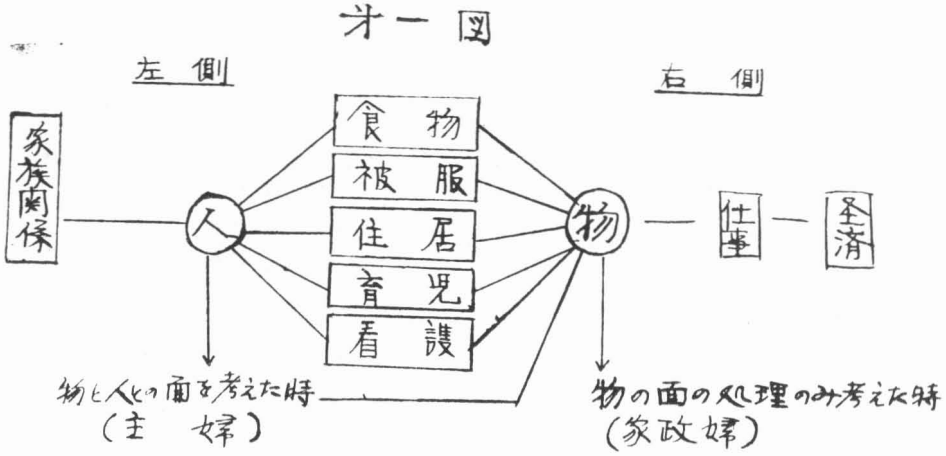
あけましておめでとうございます

今年こそは　（その1）

家計の立直しを

1. 主婦と家庭経済

私達の家庭生活は食生活、衣生活、住生活、育児、看護、家庭管理（経済を含む）家族関係等の分野に分れますが、今までこれを下図の第1表の右側に示すように、何時でも、物の面、即ち、家庭生活の仕事の面ばかりを考え、これを経済的に上手にやってゆくことばかり考えていました。ところがそれは家庭生活の一面だけであって、その裏には第一表の左側に示すように、最も大切な精神的な面があります。家庭生活は、物と人との両面から考えていく必要があります。つまり食物は栄養的でなければなりませんが、それと同時にわが家の経済にあい、しかも家族がよろこんで食べるものでなければなりませんでしょう。ですから単に仕事が上手で経済的にできるばかりでなく、家族が家庭生活に幸福を感じ、愛情で結ばれるということがなくてはなりません。　即ち主婦は、物心、両面に亙って家庭を上手に運営しなければなりません。如何に節約して、多額の貯蓄が出来ても、そのために家族が健康を害したり、あるいは、家庭の平和を乱すようなことがあっては本末てん倒しているといえましょう。経済生活は私達の身心を向上発展させ、より幸福な生活を築くためのものでなくてはなりません。例い、我が家の経済にあったものであっても、家庭の食事に魅力を失い、一寸と立寄った積りが、遂に一杯のみ、二杯から何杯かとなって、それが元で家庭の経済を乱すばかりでなく、平和を破ることにならないとも限りません。経済というと潤いのない非常にみみっちいことのように考えられますが、本当の経済というものは、決して節約一点ばりでなく、家族の幸福を考え、物心、両面を配慮した経済の営み方だと思います。



2. 予算生活

それではどのように家庭経済を運営してゆけばよいかといいますと、「予算生活」、即ち計画のある経済生活をすることです。そのためには、家の経済の実態をつか

むことが先決問題となります。実態を知るにはどうしても家計簿を「つけること」が必要になって参ります。「一年の計は元日にあり」と、どなたも一度は勇ましく、家計簿をおつけになった経験はあると思います。併し、当時の張りも、何時しか、毎日の忙しさに追われ、又貧しい暮しのやりくりの困難さに頭を悩まされ、遂に記入する事が時間的にも精神的にも大変なことでしょう。ですけど家計簿をつけ通した時の喜びは、又格別です。その必要性はだれでもよく知っておりますが、ただ成功するかどうかは、実行するかしないかにかかっております。

1）予算のたて方

A）家族会議で決める

家計はその家の職業や収入の多少、家族の数や、年齢、性別、家族の健康、生活態度、物価などによって一様にはゆきませんから、家族の要求をよく知っている主婦が大蔵大臣の役を引受けましょう。しかし予算は家族全員で実行するわけですから、家族の理解と協力がなければなりません。それで主婦がたてた予算案を家族会議で決定しましょう。今までの主婦は、2－3仙の節約を苦労して買物に時間をかけすぎた感がございますが、他の家族は大きな無駄使いをしているという例がないでしょうか？

我が家の予算会議に出席した夫や子供は、主婦の家計簿による説明が上手であれば、物を粗末にしたり、ぜいたく品を買う無駄を自然に慎しむ事でしょう。又家族の健康を犠牲にしてまで新年宴会や、おつきあいに、酒やお金を使わなくなりましょう。ただ「足りない」又「赤字だ」というだけでなく、喜んで協力が得られるように予算生活を実行してみましょう。

B）予算の目やす

予算は過去の我が家の記録をもとにして、理想配当や家計調査の実態等を参考にして配分しましょう。

第　二　表

理想配当（中等程度の生活）

戦前世帯5人（日本）

食物費	30%
被服費	13%
住居費	17%
光熱費	5%
その他の諸費	35%

家計調査による実態（沖縄）

（1957－1958年間平均）5人

食物費	55%	主食 21 非主食 32 外食 2
被服費	9	
住居費	5	
光熱費	4	
その他の諸費	26	

一世帯当り月にどの位の家計費を必要としているかの実態を企画統計局の資料から調べてみました。

上図二表に示すとおり、生活費（消費支出）に占める食物費の割合は55%で、残りの45%が被服、住居、光熱その他の諸費であります。同年間の日本全都市、全世帯平均のエンゲル係数43%に比べてまだまだ高いようです。エンゲル係数（全家計費に占める食物費の割合で、エンゲル係数が高いとは生活程度が低いことを意味する）は普通45%位が人間らしい生活を営む上での最低限だといわれております。沖縄の場合はやっと食べて生きるだけの努力をしているという現状なのです。エンゲル係数の上からも随分貧しいのですが、沖縄の現実をとらえて、わが家の家計をみ直しましょう。わが家の消費のくせや、無駄を省いて、家計の合理化を目指し、家計のたて直しを致しましょう。　（新垣都代子）